

# InstallShield 2024 リリース ノート

オリジナル リリース 2024 年 7 月、R2 を含むアップデート リリース (2025 年 1 月)

はじめに.....	2
R2 の新しい機能 .....	2
2024 R1 の新しい機能 .....	2
強化機能 .....	3
InstallShield 2024 R2.....	3
InstallShield 2024 R1.....	6
重要な情報 .....	8
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要 .....	9
InstallShield の評価.....	9
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する .....	9
InstallShield の複数エディションをインストールする .....	10
InstallShield の複数バージョンをインストールする .....	10
[リリース] ビューから [NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除 .....	10
InstallShield エディションの名前変更 .....	10
プロジェクトのアップグレードに関するアラート .....	11
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報 .....	11
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更 .....	12
文字列のローカライズに関する考慮 .....	12
バグ修正 .....	12
InstallShield 2024 R2.....	12
InstallShield 2024 R1.....	15
システム要件 .....	16
InstallShield を実行するシステムの要件.....	16
ターゲット システムの要件.....	17
既知の問題 .....	18
管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワークドライブへのアクセスの問題 .....	18
法的情報 .....	19

# はじめに

InstallShield はハイクオリティな Windows Installer、InstallScript ベースのインストール、および MSIX パッケージをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2024 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正も提供されています。

## R2 の新しい機能

InstallShield 2024 R2 には、以下の新機能が追加されています:

- [InstallScript パッケージで ARM をサポート](#)

### InstallScript パッケージで ARM をサポート

InstallShield 2024 R2 には、ARM プロセッサ アーキテクチャを使用した Windows 11 上での InstallScript インストールのサポートが含まれています。

## 2024 R1 の新しい機能

InstallShield 2024 R1 には、以下の新機能が追加されています:

- [カスタム アクションで .NET Core をサポート](#)
- [SQL Scripts の データベース インポート ウィザード機能の強化](#)

### カスタム アクションで .NET Core をサポート

InstallShield 2024 R1 では、プロジェクトの [カスタム アクションとシーケンス] ビューに .NET Core タイプのカスタムアクションを追加して、.NET Core ベースのアセンブリ ファイルをサポートすることができます。 .NET Core タイプのカスタム アクションは、Visual Basic .NET または C# のようなマネージ コードで書かれた .NET アセンブリ内のパブリック メソッドを呼び出します。

この機能は、基本の MSI、InstallScript MSI、および スイート/アドバンスド UI プロジェクトで使用できます。

### SQL Scripts の データベース インポート ウィザード機能の強化

[SQL スクリプト] ビューの データベース インポート ウィザードを使ってデータベース設定をインポートして、構成された設定およびオプションに基づいて SQL スクリプト ファイルを生成することができます。

InstallShield 2024 R1 のデータベース インポート ウィザードの機能強化として、SQL Server 管理オブジェクト (SMO) が含まれています。SQL Server 管理オブジェクトを組み込むことで、データベース オブジェクトのインポートおよび SQL スクリプト ファイルの生成がより正確で効率的になります。この強化機能によって、カスタマーから報告されたレガシー スクリプト問題を解決することができます。

# 強化機能

InstallShield 2024 には、以下の強化機能が含まれています:

- [InstallShield 2024 R2](#)
- [InstallShield 2024 R1](#)

## InstallShield 2024 R2

InstallShield 2024 R2 には、次の強化機能が含まれています:

- [オートメーションインターフェイスによるインストールの管理者権限要件の指定機能](#)
- [スイート アップデートにおけるアップデート URL の SSL 証明書の検証](#)
- [新しい Microsoft ASP.NET Core 前提条件のサポート](#)
- [InstallShield サポートファイルにデジタル署名を行う機能](#)
- [オートメーション インターフェイスを使って 連鎖 .msi パッケージを構成できる機能](#)
- [カスタム署名ツールの構成でプロパティ名を指定できる機能](#)
- [\[新しいアップデート利用可能\] ダイアログのカスタマイズをサポート](#)
- [タスク スケジューラでのアプリケーション更新スケジュール タスクの作成をスキップする機能](#)
- [Windows Server 2025 のサポート](#)

### オートメーションインターフェイスによるインストールの管理者権限要件の指定機能

以前のリリースでは、オートメーションインターフェイスを使用して、インストールの .msi パッケージの [実行] シーケンスに管理者権限が必要かどうかを指定できませんでした。

InstallShield 2024 R2 では、オートメーション インターフェイスを使用して、インストールの .msi パッケージの [実行] シーケンスに管理者権限が必要かどうかを指定できます。

詳細は、InstallShield ヘルプライブラリの [ISWiSISProperty オブジェクト](#)を参照してください。



**メモ** この変更は [ISDEV-43738](#) として記録されています。

## スイート アップデートにおけるアップデート URL の SSL 証明書の検証



**プロジェクト** この情報は、スイート/アドバンスド UI プロジェクトに適用します。

InstallShield 2024 R2 には、スイート アップデートで構成されるアップデート URL の SSL (Secure Sockets Layer) 証明書の検証サポートが含まれています。この機能拡張により InstallShield は、アップデート URL からアップデートまたはファイルをダウンロードする前に、アップデート URL の SSL 証明書の信頼性を検証します。この検証プロセスにより、強化されたセキュリティ、データの整合性、潜在的な脅威からの保護が提供され、安全で信頼性の高いアップデートが保証されます。



**メモ** この変更は ISDEV-44041 として記録されています。

## 新しい Microsoft ASP.NET Core 前提条件のサポート

InstallShield 2024 R2 では、Microsoft ASP.NET Core 8.0 Runtime (v8.0.8)-Windows ホスティング バンドルという新しい前提条件が導入されました。この前提条件は、[アプリケーション データ] ビューの [再配布可能ファイル] エクスプローラーに表示されます。



**メモ** この変更は ISDEV-43895 として記録されています。

## InstallShield サポートファイルにデジタル署名を行う機能

InstallShield 2024 R2 では、[メディア] ビューの [リリース] エクスプローラー内に表示されるリリースで、[署名] タブの [パッケージ内のファイルに署名] 設定により、InstallShield サポート ファイルにデジタル署名するサポートが追加されました。

[パッケージ内のファイルに署名] 設定により、[サポートファイル] ビューで構成された InstallShield サポートファイル (英語、言語非依存、および詳細ファイル) を含む、インストール プロセス中にのみ使用されるすべてのファイルにデジタル署名できます。



**メモ** この変更は ISDEV-43800 として記録されています。

## オートメーション インターフェイスを使って 連鎖 .msi パッケージを構成できる機能

以前のリリースでは、オートメーション インターフェイスを使用して、連鎖した .msi パッケージを構成できませんでした。

InstallShield 2024 R2 では、オートメーション インターフェイスで連鎖した .msi パッケージを構成できるようになりました。



**メモ** この変更は ISDEV-42537 として記録されています。

## カスタム署名ツールの構成でプロパティ名を指定できる機能

InstallShield 2024 R2 では、カスタム署名ツールの構成時に、[メディア] ビューの [リリース] エクスプローラに表示されるリリースの [署名] タブにある "引数" 設定でプロパティ名を指定できます。"引数" 設定でプロパティ名を指定するとき、次の規則に従う必要があります。

- ・ プロパティ名は、プロジェクトの [プロパティ マネージャー] ビューで定義する必要があります。
- ・ "引数" 設定でプロパティ名を使用するには、角括弧 ([]) で囲む必要があります。



**メモ** この変更は ISDEV-43923 として記録されています。

## [新しいアップデート利用可能] ダイアログのカスタマイズをサポート



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

以前は、アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI インストーラーがアプリケーションのアップデート用に構成されている場合に表示される [新しいアップデート利用可能] ダイアログをカスタマイズすることができませんでした。

InstallShield 2024 R2 より、isupdate.xml という名前のメタデータ ファイルを使って必要な値を追加し、[新しいアップデート利用可能] ダイアログ ボックスを構成することができます。新しいプロパティは次の通りです：

- ・ **DialogBackgroundColor**— このプロパティを使って、[新しいアップデート利用可能] ダイアログ ボックスの背景色を指定します。
- ・ **DialogHeaderFontSize** — このプロパティを使って、[新しいアップデート利用可能] ダイアログ ボックスのダイアログ ヘッダーのフォントサイズを定義します。読みやすくするため、28 以上のサイズを定義することが推奨されます。
- ・ **DialogBodyFontSize**— このプロパティを使って、[新しいアップデート利用可能] ダイアログ ボックスのダイアログ テキストおよびボタン テキストのフォント サイズを定義します。読みやすくするため、18 以上のサイズを定義することが推奨されます。
- ・ **DialogTextColor**— このプロパティを使って、[新しいアップデート利用可能] ダイアログ ボックスのダイアログ テキスト、ボタン テキスト、ダイアログ ヘッダーの色を指定します。

詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリに掲載されている「[新しいアップデート利用可能] ダイアログのカスタマイズ」を参照してください。



**メモ** この変更は ISDEV-44018 として記録されています。

## タスク スケジューラでのアプリケーション更新スケジュール タスクの作成をスキップする機能

以前は、[メディア] ビューの [リリース] エクスプローラーにある [更新] タブで、アプリケーションの更新のために [アドバンスド UI/スイート アドバンスドUI] インストーラーが構成されている場合、ターゲット システムへのインストール中に Windows タスク スケジューラでアプリケーションの更新のためのスケジュール タスクの作成をスキップできませんでした。

InstallShield 2024 R2 では、ISSKIPAPPUPDATES というプロパティが導入され、ターゲットシステムへのインストール中に Windows タスク スケジューラでのアプリケーション更新のスケジュール タスクの作成をスキップできるようになりました。[ユーザー インターフェイス] ビューの [ウィザード インターフェイス] エクスプローラ内にある任意のウィザードページで ISSKIPAPPUPDATES プロパティを使用してチェックボックス コントロールを構成すると、インストール中にユーザーが Windows タスク スケジューラでスケジュール タスクの作成を制御できるようになります：

- ・ インストール ダイアログでチェックボックスを選択すると、アプリケーション更新のスケジュール タスクの作成がスキップされます。
- ・ インストール ダイアログでチェックボックスを選択解除すると、これらのタスクの作成が許可されます。

詳細は、InstallShield ライブラリに掲載されている「Windows タスク スケジューラでのアプリケーション更新のスケジュール タスクの管理」を参照してください。



**メモ** ISSKIPAPPUPDATES プロパティを使用するチェックボックス コントロールの構成は、ターゲットシステムにインストールする前に行う必要があります。



**メモ** この変更は ISDEV-44035 として記録されています。

## Windows Server 2025 のサポート

InstallShield 2024 R2 を使って、Windows Server 2025 のインストール条件を構成することができます。



**メモ** この変更は ISDEV-44144 として記録されています。

# InstallShield 2024 R1

InstallShield 2024 R1 には、次の強化機能が含まれています：

- ・ Setup.exe の複数実行を防止する機能
- ・ アップデートをダウンロードせずにスイート インストールをサイレントで実行する
- ・ 詳細ログでプロパティ値を隠す機能
- ・ コマンドラインを使って EV/OV トークン パスワードを指定できる機能
- ・ イメージを 125% および 175% に拡大して正しく表示できる機能

## Setup.exe の複数実行を防止する機能



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

InstallShield 2024 R1 では、[リリース] ビュー内のリリースで、[Setup.exe] タブに追加された **“複数起動の防止”** 設定を使って、setup.exe ファイルを同時に複数起動または複数実行することを防ぐかどうかを指定することができます。次のオプションを選択できます：

- **はい**— このオプションを選択して setup.exe ファイルの複数起動または複数実行を防ぎます。
- **いいえ**— このオプションを選択して、setup.exe ファイルの複数起動または複数実行を許可します。

デフォルトで、この設定は [いいえ] になっています。

詳細については、InstallShield ヘルプ ライブラリの「リリースの [Setup.exe] タブ」を参照してください。



**メモ** この変更は ISDEV-42964 として記録されています。

## アップデートをダウンロードせずにスイート インストールをサイレントで実行する



**プロジェクト** この情報は、スイート/アドバンスト UI プロジェクトに適用します。

InstallShield 2024 R1 では、/skipupdate というコマンドライン パラメーターを使ってスイート/アドバンスト UI サイレント インストールを構成することができます。この機能を使って自動的にユーザーによるダウンロード可能なアップデートの適用を強制する代わりに、インストーラーがアップデートのダウンロードをスキップしてサイレント インストールを続行するように指示できます。

ユーザーによるアップデートのダウンロードを強制せずにスイート/アドバンスト UI サイレント インストールを実行するには、次のコマンドラインで /skipupdate パラメーターを使用します：

```
Setup.exe /silent /skipupdate
```



**メモ** このコマンドライン パラメーターは、サイレント モードによるスイート/アドバンスト UI インストール機能を強化します。



**メモ** この変更は ISDEV-43716 として記録されています。

## 詳細ログでプロパティ値を隠す機能



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ [基本の MSI](#)
- ・ [InstallScript MSI](#)

InstallShield 2024 R1 では、MsiHiddenProperties プロパティを使って、詳細ログでプロパティ値を隠すことができます。

この強化機能を使用するには、[\[動作とロジック\]](#) の [\[プロパティ マネージャー\]](#) ビューを使って MsiHiddenProperties の値としてプロパティを設定する必要があります。その結果、[\[メディア\]](#) ビュー内のリリースの下にある [\[連鎖 .msi パッケージ\]](#) エクスプローラーで選択されたパッケージの ["インストールのプロパティ"](#) 設定に定義されたプロパティの値が詳細ログファイルで非表示となります。



**メモ** この変更は ISDEV-32736 として記録されています。

## コマンドラインを使って EV/OV トークン パスワードを指定できる機能

InstallShield 2024 R1 では、cert\_password を使って EV/OV トークン パスワードを指定することができます。これは、コマンドライン ビルドでプロジェクトに含まれるファイルに署名を行うためのオプションのパラメーターです。



**メモ** この変更は ISDEV-43922 として記録されています。

## イメージを 125% および 175% に拡大して正しく表示できる機能

InstallShield 2024 R1 を使って、Windows 拡大率が 125% および 175% に設定されている時、インストールの処理中にスイート読み込み画面で表示されるイメージを正しいサイズで表示することができます。



**メモ** この変更は ISDEV-43034 として記録されています。

# 重要な情報

InstallShield 2024 リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- ・ [同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要](#)
- ・ [InstallShield の評価](#)
- ・ [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- ・ [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- ・ [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- ・ [\[リリース\] ビューから \[.NET/J#\] タブおよび \[MSI エンジンを含める\] オプションを削除](#)
- ・ [InstallShield エディションの名前変更](#)



# 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2024 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2024 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2024 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェック アウトしません。



**メモ** FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 で、InstallShield 2023 および InstallShield 2024 のライセンスを管理することができます。InstallShield 2023 から InstallShield 2024 にアップグレードすると、既存する FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 を使用できるようになります。InstallShield 2021 以前のバージョンからアップグレードする場合、FlexNet Licensing Server ソフトウェアを v11.19.0 にアップグレードする必要があります。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Reverera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

## InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。



**メモ** InstallShield 2023 から 2023 まで、Professional Edition は「InstallShield Edition」と、Premier Edition は引き続き「InstallShield Premier」と呼ばれていました。InstallShield 2024 より、「InstallShield Edition」が「InstallShield Professional」に戻ります。

## InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル（例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト）
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン（使用可能な場合）

- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



**メモ** InstallShield 2021 より、Collaboration Edition (DIM エディター) が使用できなくなりました。

## InstallShield の複数エディションをインストールする

同じシステム上に InstallShield 2024 Premier Edition または Professional Edition のどちらか 1 つのエディションのみをインストールすることができます。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2024 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2024 Standalone Build は、別のバージョンの Standalone Build と同じマシン上に同時にインストールすることができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。InstallShield と Standalone Build を同じマシン上にインストールしてオートメーション インターフェイスを使用するには、InstallShield ヘルプ ライブラリの「[Standalone Build と InstallShield を同一のマシン上にインストールする](#)」を参照して、特別な登録およびアンインストールについて考慮すべき点に留意してください。

## [リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除

[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプションには .NET 1.1/2.0, Windows Installer 3.1 および J# 再配布可能ファイルのサポートが提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートが停止されました。これに伴い、InstallShield 2024 のすべてのエディションで、[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプション (並びに関連する [.NET 1.1/2.0 コア言語] と [.NET 1.1/2.0 言語パック] ダイアログ ボックス) が削除されました。InstallShield 2024 ビルド タスクは、古いバージョンのプロジェクト ファイルでこれらのオプションが検出されても無視します。

## InstallShield エディションの名前変更

InstallShield 2020 およびそれ以前のリリースで、InstallShield には次の名前の 2 つのエディションがありました:

- InstallShield Professional Edition
- InstallShield Premier Edition

InstallShield 2021 から 2023 まで、**Professional Edition** が **InstallShield Edition** に変更され、次の 2 つのエディションがありました:

- InstallShield Edition
- InstallShield Premier Edition

InstallShield 2024 から、エディション名が Professional Edition および Premier Edition に戻りました。

- InstallShield Professional Edition
- InstallShield Premier Edition

## プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2024 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2024 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2024 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

## InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2024 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2024 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2024 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

# ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

すべてのプロジェクト タイプで、InstallShield で生成されたインストールを実行するためにターゲット システムに必要な Windows の最小バージョン要件は Windows 7 および Windows Server 2008 R2 です。

## 文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

## バグ修正

このセクションは、次のバージョンの InstallShield で解決されているカスタマーからの問題の一覧表です:

- [InstallShield 2024 R2](#)
- [InstallShield 2024 R1](#)

## InstallShield 2024 R2

次の問題が、InstallShield 2024 R2 で修正されました:

問題番号	問題の概要
ISDEV-44009	Visual Studio 2022 の VSSolutionFolder パス変数がソリューション フォルダーのパスで更新されず、基本の MSI プロジェクトで未定義とマークされました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-38847	<b>[更新]</b> タブの <b>"プロンプトメッセージ"</b> 設定が有効で、プロンプト メッセージが設定されていない場合、最新バージョンのスイート パッケージが強制インストールされ、プロンプト メッセージが表示されずにインストールが進行しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44001	<b>[Setup.exe]</b> タブの <b>"InstallShield 前提条件の場所"</b> 設定が <b>[Webからダウンロード]</b> に設定されていると、VC2022 前提条件のインストールに失敗するという問題がありました。この問題は解決されました。
ISDEV-43906	LAOW_OPTION_WAIT オプションが <b>DoInstall</b> InstallScript 関数に渡されると、メイン インストーラが待機に失敗し、サブ インストーラが予期しない動作をするという問題がありました。この問題は、主に <b>Doinstall</b> 呼び出し前の InstallScript コードで <b>LaunchAppAndWait</b> 関数が使用されたために発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-43756	InstallShield 2023 R2 Premier Edition を 32 ビット プラットフォーム上にインストールするときにエラーが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44081	<b>[後で通知]</b> または <b>[ダウンロード]</b> オプションが選択されるたびに、スイート アップデート関連のポップアップ ダイアログが表示されました。この問題は解決されました。
ISDEV-43881	<b>[リリース]</b> エクスプローラーで製品構成とリリースの名前を変更した後、リリース エクスプローラーの <b>[イベント]</b> タブに移動すると、マージ モジュール プロジェクトでクラッシュが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-43768	日本語版の Windows プラットフォームで、InstallScript の初期化ダイアログボックスのテキストが 1 行に表示されず、2 行に分かれて表示されました。この問題は、スキン ダイアログで解決されました。
ISDEV-44048	Visual Studio ソリューションと統合された InstallShield プロジェクトを作成すると、Visual Studio ソリューションを開くことができず、次のエラーメッセージが表示されました:  InstallShield が初期化されませんでした。管理者特権またはパワーユーザー特権を持つユーザーが最低 1 回 InstallShield を実行する必要があります。  この問題は解決されました。
ISDEV-43720	以前のバージョンのパッケージを指定すると、InstallShield のビルド プロセスでマイナー アップグレード用の 4 つのペイロードファイルのうち、1 つのファイル拡張子が自動的に誤って変更されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44108	InstallScript カスタム アクションを使用する基本の MSI プロジェクトをインターネット接続なしでインストールしようとする、インストールに遅延が発生することがありました。この問題は解決されました。
ISDEV-44014	ISSetup.dll ファイルがカスタム署名方式で 2 回デジタル署名されると、ビルドに失敗することがありました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44109	/clone_wait コマンドライン パラメーターを指定して setup.exe ファイルをインストールすると、コマンドライン パラメーターとして -waitingforchildprocess が追加されました。この問題は解決されました。
ISDEV-42677	InstallScript プロジェクトで、製品を最新バージョンにアップグレードするときに、製品の正しい前のバージョンを表示できませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-43737	<b>[更新]</b> タブの <b>[アップデートの有効化]</b> 領域で設定したバージョン更新情報のダイアログボックスが、スイート読み込み画面の上部に表示されず、その背景に表示されていました。この問題は解決されました。
ISDEV-25749	<b>[ユーザー インターフェイス]</b> ビューの <b>[ダイアログ]</b> エクスプローラに表示される <b>[スキン]</b> フォルダーで、 <b>[スレート]</b> 、 <b>[ミッドナイト]</b> 、または <b>[オリーブ]</b> のダイアログ スキンを選択すると、 <b>[使用許諾契約]</b> パネルの <b>[印刷]</b> ボタンの位置にずれが生じるという問題がありました。この問題は解決されました。
ISDEV-43640	スイート/アドバンス UI プロジェクトの初期パッケージで MD5 チェックに失敗しても、同じプロジェクトのインストールが中断しないという問題がありました。この問題は解決されました。
ISDEV-44204	ISHiddenProperties プロパティは、 <b>[イベント]</b> ビューの <b>[アクション]</b> タブにある <b>"引数"</b> 設定でこれらのプロパティを使用するときに、プロパティのパスワード値によってその名前が定義され、プレーン テキストとしてログに記録されるのを防ぐことができませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-44146	<b>[テキストファイルの変更]</b> ビューでこれらのプロパティを使用するときに、MSIHiddenProperties プロパティで定義された名前の値がプレーンテキストとして記録されないようにすることに失敗しました。この問題は解決されました。
ISDEV-43637	インストール中に <b>[InstallShield Wizard]</b> ダイアログで /a コマンドライン パラメーターの表示に失敗しました。この問題は解決されました。
ISDEV-43569	TARGETDIR プロパティ値を複数の言語の Unicode 文字を含むカスタマイズされた場所に変更すると、InstallScript プロジェクトで構成されたオブジェクトのインストールに失敗することがありました。この問題は解決されました。
ISDEV-42603	CNG 証明書を使って Swidtag.xml ファイルに署名を行うと、次のメッセージとともにエラーが発生しました:  ISDEV : エラー -1027: 署名に失敗 regid.2000 08.com.reverena_BDC3653D-36B2-4E2F-A7B6-9C2BF12E6278.swidtag  この問題は解決されました。

# InstallShield 2024 R1

次の問題が、InstallShield 2024 R1 で修正されました:

問題番号	問題の概要
ISDEV-43799	”署名の種類” 設定が [カスタム] オプションに設定されている場合、”パッケージ内のファイルに署名する” 設定がパッケージ ペイロード ファイルにデジタル署名をするとき失敗します。この問題は解決されました。
ISDEV-43797	”署名の種類” 設定で [カスタム] オプションに選択されている場合、.mst ファイルが 2 回デジタル署名されるため、ビルド時間が長引きました。この問題は解決されました。
ISDEV-43824	レジストリおよびファイルのアクセス許可オプションを使って構成されたセットアップについて、基本の MSI セットアップおよび InstallScript MSI (64 ビット) セットアップで脆弱性が報告されました。この問題は解決されました。
ISDEV-43745	Windows ロケールの設定で [ベータ:ワールドワイド言語サポートで Unicode UTF-8 を使用] チェックボックスが選択されている場合、InstallShield インターフェイスで文字化けが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-43718	InstallScript MSI プロジェクトで”InstallScript ユーザー インターフェイス タイプの設定” が [新しいスタイル (Windows Installer 4.5 が必要)] オプションに設定されている時、ビルドが失敗して「ISDEV : 致命的なエラー -1027: 署名エラー _isuser_0x0409.dll」エラー メッセージが表示されました。この問題は解決されました。
ISDEV-43694	借用ライセンスの返還時にエラーが発生しました。この問題は解決されました
ISDEV-43589	サイレント インストールが成功した後、setup.log ファイルの [ResponseResult] セクションにある ResultCode 値が更新されませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-42676	InstallShield 事故登録 (ISSelfReg) メソッドを使って、プロジェクト内の .dll ファイルを登録すると、脆弱性の原因となりました。この問題は解決されました。
ISDEV-42638	日本語でインストーラーを起動した時、ユーザー名に複数バイト文字が含まれている場合に Sd ダイアログでイメージが表示されませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-42629	最初に MAX 値が設定されていたデータベース列は、データベースが [SQL サーバー] ビューヘインポート中に 0 値に変更されました。これによってセットアップのインストールが「長さまたは精度 0 が無効です。」エラーと共に失敗しました。(1001) エラー メッセージ。この問題は解決されました。
ISDEV-41935	再起動後、インストーラーに含まれている前提条件のために、temp フォルダーからファイルが削除されませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-43875	/tempextractpath 引数を使ってカスタム ディレクトリへのファイルの抽出が失敗しました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-38622	SRCDIR ソース フォルダを削除すると、InstallScript インストーラーが修復中に「data2.cab を含むディスク 1 を挿入してください。」メッセージが表示されました。この問題は解決されました。
ISDEV-43807	リリース ウィザードの [一般オプション] パネルにある [セットアップ コマンドライン] ボックスで /extract_all コマンドライン パラメーターを使用した場合の非稼働時の動作についての説明が、ドキュメントに記載されていませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-43804	ドキュメントでは、レジストリ キーのデフォルト値をシステム検索するための適切な機能に必要な要件が説明されていませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-42799	ドキュメントで .NET 属性の公式な Microsoft 用語の一貫性が欠けていました。この問題は解決されました。

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム（ランタイム環境）の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム（オーサリング環境）の要件が説明されています。

- ・ [InstallShield を実行するシステムの要件](#)
- ・ [ターゲット システムの要件](#)

## InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	1 GB の RAM (2 GB 推奨)
ハードディスク	1 GB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度



項目	説明
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 R2</li> <li>Windows 10</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows 11</li> <li>Windows Server 2022</li> <li>Windows Server 2025</li> </ul>
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Visual Studio 2012</li> <li>Visual Studio 2013</li> <li>Visual Studio 2015</li> <li>Visual Studio 2017</li> <li>Visual Studio 2019</li> <li>Visual Studio 2022</li> </ul> <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Professional</li> <li>Premium</li> <li>Ultimate</li> <li>Enterprise</li> </ul>

## ターゲット システムの要件

ターゲットシステムで次の最小オペレーティング システム要件を満たす必要があります:

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows Server 8.1

- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

## 既知の問題

InstallShield 2024 の既知の問題は次の通りです:

- [管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワークドライブへのアクセスの問題](#)

## 管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワーク ドライブへのアクセス問題

VMware Tools を使用して構成された VMware Workstation のマップされたネットワークドライブに標準ユーザーはアクセスできますが、管理者権限で実行する InstallShield がアクセスできなくなります。

詳細は、Reverera Community の「[A network drive mapped in VMware Tools is accessible only to Standard users, blocking access for InstallShield running as Administrator \(VMware Tools でマップされたネットワークドライブが標準ユーザーのみアクセス可能で、管理者として実行する InstallShield のアクセスがブロックされる\)](#)」を参照してください。



**メモ** この問題は ISDEV-44315 として記録されています。

# 法的情報

## 著作権情報

Copyright © 2025 Flexera Software. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な制作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

## 知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.reverera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

## (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商用コンピュータソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。